

騙されるな～女子中高生の嘘をつく性格、相手、種類～  
藤澤未優

問題

人間の中で嘘をついたことが無い人はいるのだろうか。筆者自身も何の躊躇もなく顔色一切変えずに嘘をつくことだってある。それに加えて、年齢が上がるにつれて物事をよく考えるようになったため嘘をつくことが多くなっている。筆者は自分を守る、人を守るなど嘘には種類があり、それらを分けることで人がどの種類の嘘をつきやすいのかが分かるのではないかと考えた。Wilsonら(1991)は嘘の種類を表1のように分類した。

表1 Wilsonら(1991)による嘘の分類

A 自己保護のための嘘	罪や避難、不承認の逃れとか、バツの悪さを避けるもの
B 自己拡大のための嘘	現実よりも自分をよく見せようとするのに用いられ、注目や承認などを得るために自分の能力や持ち物、成し遂げたものを自慢するとか、ほら吹き嘘
C 忠誠の嘘	ある人を守るためにその人の違反行為について間違っただけの供述をすること
D 利己的な嘘	物質的な利益を得ようとしてつく嘘
E 反社会的・有害な嘘	わざと人を非難したり、けなしたりしてその人を傷つけるといったもの

また、足立(2009)は嘘をつきやすい人や騙されやすい人の性格、環境、価値観との関連性を導きだした。そして対人信頼感が低く、親の言いなりで育ち、審美型の価値観を持っている人が嘘をつきやすいという結果が出た。このことから足立は嘘をつきやすい人は他人を信頼しておらず、常に他人に対し「騙されるかもしれない」と警戒し、ひいては他人に対する配慮、思いやりへの関心が薄いのではないかと考えた。

以上のことから筆者は嘘をつきやすい人の共通の性格、嘘の種類による嘘のつきやすさの変化、嘘をつく相手による嘘のつきやすさの変化、年齢の変化に応じてつきやすくなる嘘の種類を明らかにすることを目的とする。そして筆者は、衝動性、社会的内向性が高い人が嘘をつきやすい、人は自己拡大のための嘘をよくつき、店員によく嘘をつく、そして、年齢が上がるにつれて、忠誠の嘘をよくつくると仮説を立てた。

方法

①被験者

13歳から17歳までの女子中学生41名、女子高校生74名、計115名に依頼した。

②実験計画

嘘をつく相手(先生、店員、友人)、嘘の種類(自己保護のための嘘、自己拡大のための嘘、忠誠の嘘、利己的な嘘)を被験者内要因、年齢(中学生、高校生)を被験者間要因とし、性格と

の相関を見た後、三要因分散分析をした。

### ③実験材料

表1のAからDの嘘の種類とその相手に対する記述式質問紙12問(表2に記した)と衝動性、社会的内交性を調べる質問紙は足立(2009)が実験を行ったときと同じものを使用した。衝動性については4件法、社会的内交性については3件法で質問を行った。記述式質問紙については嘘をついているかついていないかの判断を3名以上で行った。このようにすることで、主観が入らずより信憑性の高いものにした。

表2 記述式質問紙 質問内容

---

あなたは友達にCDを借りたけれど長い間返すのを忘れていました。友達に「あのCD持ってる？」と聞かれました。あなたはCDがどこにあるかわからない状態です。あなたは何と答えますか。

---

あなたは一人で近くの店で買い物をしていました。友達が万引きしているところを見かけました。後日、店員に事情聴取で「何か見ていませんか。」と尋ねられました。あなたは何と答えますか。

---

あなたは国語の時間に漢字の小テストを受けました。担任の先生と満点を取ると約束したのに10点満点中1点でした。担任の先生は英語の先生であなたの小テストの結果は知りません。担任の先生に「漢字の小テストどうだった？」と尋ねられました。あなたは何と答えますか。

---

あなたは友達から本を借り、読み終わったら一緒に挟まれていたはずのしおりがなくなっていました。友達に本を返した翌日、友達に「本の中にしおりはさまってなかった？」と尋ねられました。あなたは何と答えますか。

---

買い物に行くとき一人一つ限定と書かれたものがあり一つを手に取りレジに並びました。買い物を終え、もう一つ欲しくなりもう一度並びました。会計のときにレジの店員に「さっき購入されていませんか。」と尋ねられました。あなたは何と答えますか。

---

担任の先生に「オーストラリアの首都はシドニー」と教わり社会のテストでそれを書きました。答えはキャンベラなので社会科の先生に「誰に教わった。」と怒られました。あなたは何と答えますか。

---

友達とテストの結果について話していました。あなたはいつも高い点数を取っていた教科で欠点を取ってしまいました。あなたは今、友達に点数を聞かれています。あなたは何と答えますか。

---

スーパーであなたは卵のパックを落とし割れてしまいました。そのまま棚に戻し立ち去りました。買い物を続けていると「先ほど卵を落とされませんでしたか。」と尋ねられました。あなたは何と答えますか。

---

長期休暇に教科書を読むという宿題が出され、提出もなかったのでやりませんでした。休み明け、先生にその宿題をしたかどうか尋ねられました。あなたは何と答えますか。

---

あなたは初めてその友達と私服で遊びます。会った時にとってもダサイ服を着ていました。その友達に今日の服について聞かれました。あなたは何と答えますか。

---

---

洋服屋に行くと店員に声を掛けられ服を買う気はなかったけれど店員に勧められ何枚か試着をしました。すると店員に「ご購入はどうかございますか。」と言われました。あなたは何と答えますか。

---

担任の先生に「明日は絶対に遅刻しないように。」と言われた翌日、あなたは寝坊をしてしまいました。担任の先生に理由を問いただされています。あなたは何と答えますか。

---

#### ④手続き

被験者に記述式の質問紙から回答してもらい、その後、衝動性、社会的内向性を調べる質問紙に回答してもらった。

#### 結果

嘘をつく相手、嘘の種類、年齢の全てと、性格との相関は低かった。

3要因分散分析の結果、嘘をつく相手による主効果( $p<.05$ )、嘘の種類による主効果( $p<.01$ )、年齢と嘘の種類による交互作用( $p<.05$ )が有意であった。

表3 嘘をつく相手による嘘を記述した平均値(全4回中)

先生	1.5
店員	2.0
友人	2.1

嘘をつく相手による主効果の下位検定の結果、先生よりも店員、友人には有意によく嘘をつくことが分かった( $p<.05$ )。

表4 嘘の種類による嘘を記述した平均値(全3回中)

自己保護のための嘘	1.3
自己拡大のための嘘	1.0
忠誠の嘘	1.4
利己的な嘘	1.7

嘘の種類による主効果の下位検定の結果、自己拡大のための嘘よりも利己的な嘘を有意によくつくことが分かった( $p<.01$ )。

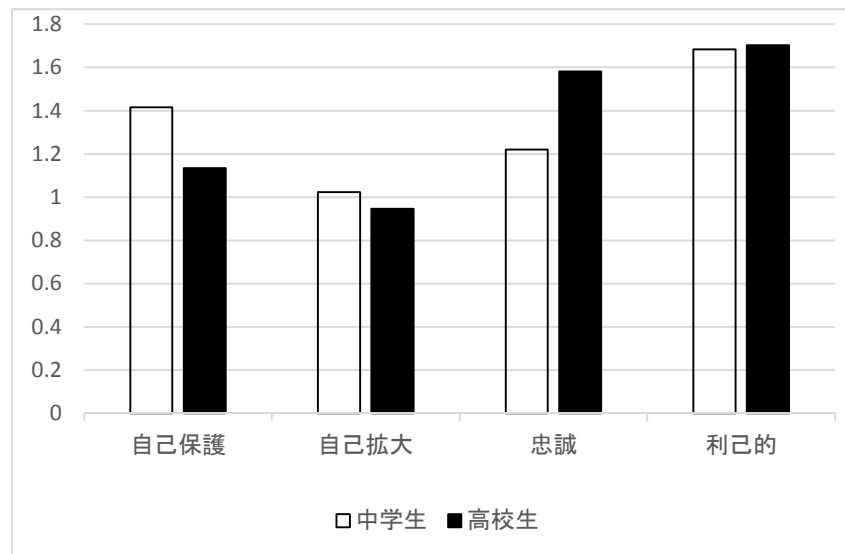


図1 中高生と嘘の種類による嘘を記述した平均値(全3回中)

中高生と嘘の種類による交互作用の下位検定の結果、忠誠の嘘に関して中学生よりも高校生のほうが有意に嘘をつくことが分かった。

#### 考察

性格と嘘のつきやすさの相関が低かったことから衝動性、社会的内向性の高さでは嘘をつきやすい人とは判断できないことが分かった。これは足立(2009)の実験結果を支持した。

先生より友人や店員に嘘をつくことから人は嘘をつくときに自分が損をしないかということを考えて嘘をつくのではないかと筆者は考えた。これはAxelrod(1980)のしっぺ返し理論と関連づけられる。人は嘘をつかれたらつき返し、嘘をつかれなければ嘘をつかない。具体的には店員には思ってもないようなこと言われたり、商品について誇張して話され嘘をつかれたりした経験のある人が多くいると思われ、その人たちは店員が嘘をつくイメージがある。そして、自分が嘘をつくことが自分の得に繋がると考え嘘をつく人が多い。また、友人では裏切られた経験がある人が多いと思われ、自分の得になるように嘘をつく人が多いと思われる。一方、先生に嘘を教えられたことがある人は少なく、先生に対して嘘をつくことは後に自分の不利にしかならないと考えるため嘘をつく人が少ないと思われる。以上のことからAxelrod(1980)のしっぺ返し理論と同様に嘘をつかれた人にだけ嘘をつき返す人が多く、反対に嘘をつかれたくない人には嘘をつかないと考えられる。

また、利己的な嘘をよくつき、中学生より高校生の方が忠誠の嘘をつくことから、人間は基本的に自分の欲求を満たしたい、自分にとって特になるように行動してしまいがちであるが、年齢が上がるにつれて他者にも目をむけられるようになっていのではないかと、つまり年齢が上がるにつれて精神的成長も見られると筆者は考える。

今後の課題としては、今回の実験は女子中高生が対象であったため、男子中高生や幅広い年代の方々に実験を行う必要があり、年代別、男女別に比較をする必要もある。

## 謝辞

2年間のご指導、それに加えて論文を作成するにあたりご指導頂きました江村崇先生に心より御礼申し上げます。そして谷川真生さん、中川美優さん、村上海春さんにはこの研究を行うにあたりたくさんの協力をしていただきました。本当にありがとうございました。最後にこの研究に御協力頂いた、たくさんの方々に心より御礼申し上げます。

## 参考文献

- 足立京一 2005 嘘をつく人と騙される人のパーソナリティに関する研究 大阪信愛学院  
短期大学紀要
- Axelrod, R. 1980 More Effective Choice in the Prisoner's Dilemma *The Journal of  
Conflict Resolution*
- Wilson, J.N. & Carroll, J.L. 1991 Children's trustworthiness: judgements by teachers,  
parents and peers in K. J. Rotenberg (Ed.) *Children's interpersonal trust:  
sensitivity to lying, deception and promise violation*